



# 地場工務店のための住宅の換気と雨仕舞い

## 第三回

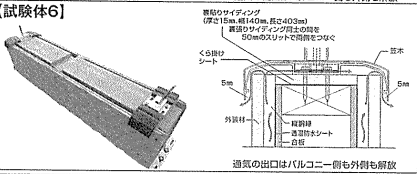
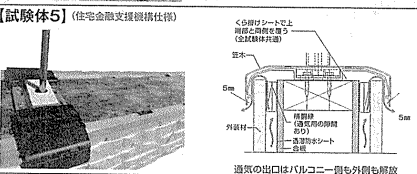
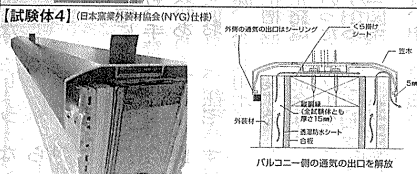
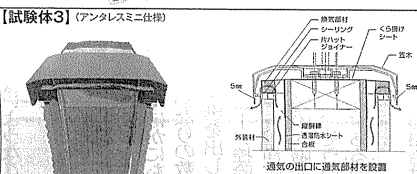
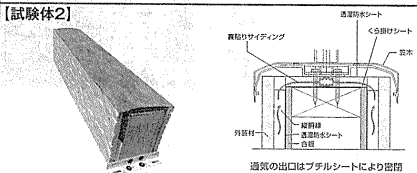
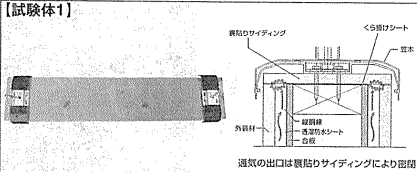
神戸陸史 (株式会社ハウゼコ)

前回は、閉塞系の納まりの試験体1と2の結露リスクの問題点を取り上げました。

しかし、試験体1と2の問題点は実は結露リスクだけではありません。納まりをよく見ますと、手すり壁躯体天端の上に窯業サイディングを裏貼りしています。その為、窯業サイディングを留めつけるビスが、住宅金融支援機構の工事仕様書で義務付けられた手すり壁天端の軟かけシートの防水層を貫通しています。貫通したビスからは漏水の危険性があります。

木造住宅における水平面は、最も留意すべき部位です。その最も留意すべき部位に、多くの劣化リスクを作っている事が、パラペットや手すり壁のトラブルの多い原因となっています。同じことが、試験体6,7,8にも言えます。逆に、試験体3,4,5の手すり壁天端は、笠木を設置する為のブラケットの穴以外は、貫通穴が無く、漏水リスクが極小化されています。この3体の共通点はわかりますか?この3体の共通点は、知見を持った組織が考えた納まりだということです。住宅金融支援機構と日本窯業外装材協会とハウゼコです。

木造住宅の水平面の貫通穴のリスクについては、現場での施工品質のばらつきによるリスクが高いと考えられています。しかし残念ながら、現場では圧倒的に手すり壁天端を窯業サイディングまたは木下地で養生しているケースが多いのです。今回の納まり図には手すりを省略しましたが、多くのバルコニーの笠木には、手すりが設置されています。手すりには、布団等を干したり、子供が揺さぶったり、想定外の力が加わります。そのような危険な部位には、できるだけリスクを極小化しておく必要があるのです。



手すり壁天端の納まりのお話はここまでにして、2つ目にその天端を養生している材料について考えていきたいと思います。天端養生材の多くは、窯業サイディングの裏貼りと木下地の2つに分かれます。

みなさん!窯業サイディングは、水平面での使用を禁じられているのをご存知ですか?

みなさん!窯業サイディングは、裏面使用が禁じられているのをご存知ですか?

みなさん!窯業サイディングは、裏面は防水機能があまり無いのをご存知ですか?

みなさん!窯業サイディングの裏面養生は、瑕疵担保保証の10年がたった頃に、ぐらつき等のクレームが増えてくるのをご存知ですか?

みなさん!窯業サイディングの裏面養生は、寒冷地の湿気が多い地域の北側バルコニーで、リスクが高いのをご存知ですか?

みなさん!窯業サイディングの裏貼りだけではなく、木下地もリスクが高いのをご存知ですか? 特に北側バルコニーの手すり壁天端は、太陽光があたらなため湿潤状態が続き、木下地の腐れの原因にもなってきます。手すり壁天端に養生材を入れないことが、様々な環境下での劣化リスクを減らせるということなのです。

3つ目に、笠木のかぶりについて触れていきたいと思います。

現状の納まりから試験体6,7,8(手すり壁天端を窯業サイディングや木下地で養生)に単純に変更すると、手すり壁の通気層上端を密閉した納まり以外は、その養生材の高さ笠木の取付け位置が上がり、笠木の見付を大きくする必要があります。逆に言えば、天端養生しても密閉納まりであれば、笠木の見付を大きくする必要はありません。この事も密閉納まりが増える原因となっています。

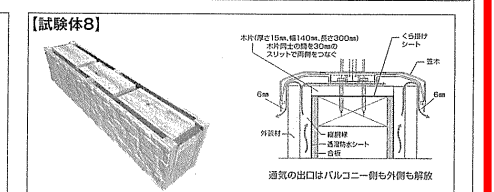
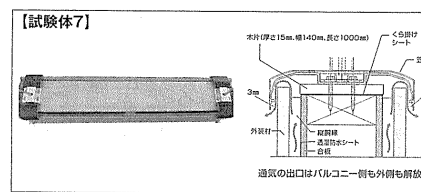
意匠が重視される住宅が多くなってきた中で、設計者はできるだけ笠木の見付を小さく見せたいというニーズが多くあります。しかし、養生材で笠木が上がっているのに現状と同じ部材の見付だと笠木とサイディングのかぶりが少なくなります。従来のかぶりを確保しようとすると、笠木の見付が大きくなり意匠的に悪くなります。結果、デザインやかぶりの面から見ても、手すり壁天端に養生材は無い方が良いという結論に至ります。

4つ目に施工の取り合いについて考えます。

この部位は、納まりによって様々な職種が入り込みます。最初に、試験体1,2,3,4,5,6についてですが、窯業サイディングによる天端養生がある場合と、天端養生が無い場合です。このケースは非常にシンプルで、手すり壁天端より下はサイディング工事業者で完結し、その後アルミ建材業者が笠木等施工して終わります。

しかし、7と8の木下地による天端養生がある場合は、まず腰壁を大工工事、続いてサイディング工事業者をサイディング業者、そして再び木片による天端養生を大工、後にアルミ建材業者が笠木を施工します。このようなケースでは、手すり壁天端の養生部分に取り合いが発生し、納まりの標準化が難しくなります。ゆえに、極力取り合いが出ない納まりという面から見ても、手すり壁天端に養生はしないほうが良いという結論に至ります。(つづく)

神戸陸史 (カンパムツビト):平成3年ハウスメーカーに就職し、鹿児島・大阪で勤務後、平成8年ハウゼコ入社、平成19年代表取締役社長、47歳。



- 住宅の棟換気 (外壁通気を見直す)
- FC・VC、ネットワーク (2020年問題の取り組み)
- 電化住宅の役割とは (エネルギー新時代における)
- 住宅の役割とは (電化住宅の役割とは)
- 住宅の工法技術 (接合金物工法)
- 改正省エネ基準 (省エネ基準改正に取り組むべきこと)
- 地震対策 (耐震・制震)
- 住宅の最新エクステリアとデザイン新提案
- 工務店支援 (今の時代に必要な営業支援・IT支援)

新年号特集第3弾(予定)

# 2015年第2新年号特集

工務店としても40年、我が国を代表する工務店情報紙

日本住宅新聞

次々号1月25日第3新年号予告

- 長期優良時代の屋根材・外装材に求められること
- 住宅を長持ちさせる換気と通気の伝え方とは
- 住宅換気(今だから必要な住宅換気とは)
- 定期点検やメンテナンスの重要性
- 防腐・防蟻
- 屋根材・外装材
- 住宅の屋上緑化再利用はどこまで進む
- 利用別の木材製品とは
- 高性能な、家づくりににおける
- 木材
- 長寿命・高耐久な家づくりに
- における塗料の役割
- 塗料(木材保護)

次号1月15日第2新年号予告